

令和元年6月25日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H05698

研究課題名(和文) 平和構築と政治的排除～なぜ過ちは繰り返されるのか～

研究課題名(英文) Peacebuilding and Political Exclusion

研究代表者

東 大作 (Higashi, Daisaku)

上智大学・グローバル教育センター・教授

研究者番号：90608168

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：2016年4月に採択された科研費「平和構築と政治的排除」を使い、南スーダン、シリア、イラク、東ティモールなどで調査を行った。その成果は、NHKクローズアップ現代や、NHK「深読み」、NHK「視点論点」などテレビメディアや、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞など新聞のインタビュー記事を通じて、広く社会に発信し、平和構築の課題について広く理解を促進する役割を果たした。海外でも、スイスのジュネーブ、エチオピアのPKOセンター、レバノンのセントジョセフ大学、トルコのビルゲント大学、そしてアメリカ最大の平和研究所である国際平和研究所が開催したシンポジウムでも基調報告を行うなど、大きな成果をあげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南スーダンやシリア、イラクについて行った調査については、NHKのクローズアップ現代や視点論点、朝日新聞のフロントランナーや、読売新聞、毎日新聞、東京新聞などの記事等で、社会に発信する機会があったと同時に、超党派の「世界連邦議連」など多くの政策決定者に政策提言をブリーフィングする機会があり、南スーダンからの自衛隊撤収前後の日本政府の南スーダン政策にも大きな影響を与えることができた。また、海外においても、国連本部において数回にわたり、調査結果を共有する発表を行い、国連による平和構築活動にも研究成果が貢献できるよう最大限の努力を行った。

研究成果の概要(英文)：I conducted field research on South Sudan, Iraq, Syria, and East Timor by using this research fund; I shared my research findings in many international media, including NHK English programs (News Room Tokyo), NHK Close Up Now, and others. I also shared my findings through many news papers' articles on the issues of peacebuilding. I also made numerous lectures in the world, including my key note speech at International Peace Institute(IPI) in the seminar on "Importance of Inclusivity in Peacebuilding and Sustaining Peace" on 12 June 2018.

研究分野：平和構築

キーワード：和平調停 和平プロセス 平和構築 紛争解決

## 1. 研究開始当初の背景

平和構築において、包摂性が大事であることを、筆者は、2009年に出版した日本語の単著、「平和構築」(岩波新書)や、英語の拙著、Challenges of Constructing Legitimacy in Peacebuilding: Afghanistan, Iraq, Sierra Leone, and South Sudan, などで一貫して主張してきた。国連本部やニューヨーク市立大学、イエール大学、カナダのプリティッシュコロンビア大学などで、講演を重ねる中で、「現地の指導者が、政治的排除を始めたときに、どうすれば国際社会として対応したらよいか」という質問が数多く出された。その問いに答えるためには、まずは「平和構築の途上でなぜ政治的な排除が起きるのか」を分析する必要があると考え、当該研究「平和構築と政治的排除～なぜ過ちは繰り返されるのか」を申請し、受託された。

## 2. 研究の目的

上のような問題意識に基づき、紛争後の国家再建を通じて、持続的な平和を作りを目指す取り組み、いわゆる「平和構築」において、なぜ政治的な排除が起きてしまうのか。それを克服するにはどうすればよいかについて、いくつかのケーススタディーを通じて横断的に分析するのが本研究の目的であった。

## 3. 研究の方法

研究の方法はいわゆる、質的調査・分析 (Qualitative Analysis) であり、具体的には、南スーダン、シリア、イラクなど、世界でも最も注目度の高い紛争における、政治的排除の要因と、その克服の方法について調査を行った。南スーダンについては、研究開始直後の2016年7月に、内戦が再び勃発したこともあり、エチオピアやケニア、ウガンダなど周辺国での調査に切り替えた。2016年、2017年、2018年と周辺国で、対立するキール大統領側と、マチャール副大統領側、そして調停を担当する国連幹部やIGAD(東アフリカの地域機構)の幹部など、そしてウガンダに逃れた南スーダン難民などに繰り返しインタビューを実施した。2019年3月には、外務大臣の委嘱による公務派遣(渡航費は研究費負担)で、南スーダンのジュバに滞在し、ジュバ大学で講演したり、教授や学生と議論したり、タバデンガイ第一副大統領や、ロムロ内科府担当大臣、反政府側のアドワック元高等教育担当大臣、シーラ南スーダン国連代表、ウエス IGAD 南スーダン特使などにインタビューした。またイラクについては、2018年2月と2019年2月に、2度にわたり、外務大臣の委嘱による公務派遣で(渡航費は研究費負担)で、バグダッド大学で講演したり、マリキ副大統領、ヌジャフィ副大統領、アラウイ副大統領、アバディ元首相など、イラクの主要指導者にインタビューして、イラクにおける国民和解の課題について調査を続けた。またシリアについては、2017年夏、2018年春、そして2019年春に、レバノンやジュネーブ、トルコなどで、在ジュネーブシリア大使や、国連シリア特使、サウジアラビア、トルコ、カタール、ロシア、米国、イラン、EU など、関係国にインタビューを重ね、シリア内戦における和平交渉の難しさと、政治的排除の原因を探った。また東ティモールについては、2017年2月に現地調査を行い、グスマオ元大統領(元首相でもある)や、アルカテイリ元首相という、建国の父で、ライバルだった二人が、どのような過程を通じて、和解をして、共に国づくりを行うことができるようになったのか、二人へのロングインタビューも含めて、調査を行った。

## 4. 研究成果

南スーダンについて; 帰国後すぐに、2016年8月29日放送のNHK国際放送のNews Room Tokyo (英語ニュース) が、申請者(東)の南スーダン調査の内容について12分にわたり特集を放送。東がスタジオ出演し、撮影したインタビューも使いつつ、南スーダンの軍事・政治情勢を解説、番組は世界中で放送・発信された。また同年9月20日には、NHKクローズアップ現代「破綻国家 衝撃の潜入ルポ～混迷するソマリア・南スーダン」に出演し、やはり東のインタビューを利用しつつ南スーダン内戦の現状を日本の幅広い視聴者に伝えた(その意味で前回の科研で、「調査の際、映像も撮影し、多角的発信を目指す」と申請したことは一部達成された)。また同年9月に発刊された雑誌『外交』において、「南スーダンはどこへ行くのか～国際社会の調停と苦悩」と題し論文を発表し、南スーダンの現状と政治的排除の実態を学術的分析も加え提示した。

また英語の媒体による海外への発信も多く行った。2016年9月28日には、世界国連学会 (Academic Council on UN System) の事務局長にインタビューを受け、The South Sudan Peace Process としてポッドキャストが世界中の会員に配信された。同年11月4日には、ニューヨークの国連本部で、国連平和構築支援オフィス、PKO局、政務局、フィールド支援局が共催で東の発

表会を開催し、その成果を伝える機会に恵まれた。

更に同年11月30日には、日本初の「駆け付け警護」任務が国連南スーダンPK0に参加していた自衛隊に付与された直後のNHKクローズアップ現代「変質するPK0～自衛隊新任務の行方は～」の番組に出演。「南スーダン内戦は、日本の『応仁の乱』のような状況になっており、自衛隊の撤収も考えざるを得ない事態であるが、その際、異なる部族出身の南スーダン行政官を隣国に招き育成事業を行い和解も促進する、などの代替策をきちっと提示することが重要」と主張した。翌年2017年2月にはケニアのPK0センター講師として招かれた際、南スーダンの継続調査も行った。そして自衛隊の撤収が発表された2017年5月、読売オンラインで、「南スーダンの深刻な国内対立・自衛隊撤収後にできること」という論考を発表、2016年7月以降難民を数十万人単位で生み出している内戦の状況と、日本が自衛隊撤収後にどんな代替策をすべきか包括的に論じた。同趣旨の内容は、4月から6月にかけて読売新聞（4月17日）、東京新聞（5月28日）、毎日新聞（6月16日）、北海道新聞（6月28日）等で、インタビューの囲み記事として発表された。またNHK総合「週刊ニュース深読み」の「日本の国際貢献って？南スーダンから考える」にも出演し、自衛隊撤収後の代替策を提示した。

また雑誌『外交』では2017年8月号で「平和構築とPK0」の特集が生まれ、東の上の代替案を提示する機会に恵まれ、また超党派の「世界連邦議連」でも、同年6月20日、「南スーダン自衛隊撤収後の代替策」について講演した。このように、本科研による調査の内容や、その一連の報道や発表は、当該科研による調査・研究が、南スーダンの紛争再発、駆けつけ警護任務付与、自衛隊撤収に至る日本の平和構築支援策の議論において、重要な貢献ができた面があったと考えている。

また南スーダンについては、2019年2月から3月にかけて、外務大臣の委嘱による公務派遣で、約1週間、首都のジュバに滞在し、ジュバ大学で講演をしたり、タバデンガイ第一副大統領をはじめ、多くの閣僚や、反体制派の指導者、国連南スーダン特別代表、国民対話の代表など、多くの人達と懇談する機会に恵まれた。その調査の内容については、NHK視点論点や、NHKラジオ深夜便、雑誌「外交」などで発表する機会があった。また国際的には、2019年6月20日にニューヨークの国連本部の平和構築支援オフィスが開催する小生の講演会などで共有した。

シリア：シリアについては、2017年夏に5週間、隣国レバノンと和平交渉が行われているジュネーブで現地調査を実施。その調査の内容は、2017年9月27日に放送されたNHK News Room Tokyoで東が出演してデミツラ特使へのインタビューも使いつつ世界に発信、また上智大学国際関係研究所からワーキングペーパーとして「シリア和平プロセスの最新情勢と課題」を発表し、それを基に11月2日にはシリア和平プロセスの現状について、国連本部で発表を行った。

イラク：イラクには、2018年2月に、外務大臣の委嘱による講師派遣の枠組みで、首都バグダッドを訪問、シーア派を代表するマリキ副大統領（元首相）、スンニ派を代表するヌジャフィー副大統領、世俗派を代表するアラウィ副大統領（元首相）、またクルド派を代表するPUKのトップと、それぞれ1時間ずつ個別に懇談した。またアルナハライン国際戦略研究所で「ISIGのイラクの平和構築」に関する基調講演を行った。その内容について、2018年4月発行の雑誌『外交』で「ISIS後のイラク 平和構築とその課題」という論文を発表した。

2019年2月には、再び外務大臣の委嘱による講師派遣の枠組みで、首都バグダッドと訪問し、2018年10月まで首相を務めたアバディ元首相や、一年前の訪問時にも懇談したマリキ

副大統領、アラウィ副大統領などと懇談して、イラクの平和構築の課題についての理解を深めた。また、バグダッド大学でも基調講演を行い、世界各地で行っている調査の内容について共有しながら、イラクの平和構築の課題について、イラク人の学生や教授の人達と議論することができた。イラクでの調査の結果は、2019年5月発刊の雑誌「外交で、「イラクと南スーダン 平和構築の課題」という論文で発表することができた。

東ティモール：東ティモールには2017年2月に訪問し、グスマオ元大統領やアルカティリ元首相にインタビューし、政治的和解をいかに実現したか聞き取りした。その内容は、2017年3月17日に放送された、NHK国際放送 News Room Tokyo で世界に発信された。平和構築が比較的うまくいったケースを世界に発信できるケースはまれであり、その意味で、大きな教訓を世界に伝える成果があったと考えている。

包括的・理論的提示：2018年6月12日に、平和研究においてはアメリカ最大の研究機関の一つである国際平和研究所 (IPI = International Peace Institute)において、Importance of Inclusivity in Peacebuilding と題するセミナーが開催され、東がメインスピーカーを務め、南スーダン、シリア、イラクなどでの平和構築と政治的排除の原因、その克服のために何が必要か問題提起した。セミナーにはファブリツイオ・ホスチャイルド国連戦略担当事務次長補を始め150人の加盟国や国連の担当者が参加。IPIが掲載したセミナーの様子を示すビデオには世界中から2千件を超えるアクセスがあり、世界的発信につながった。(日本人がIPIで基調報告をしたのは、初めてであった。)

その後、2018年6月23日には、朝日新聞特集欄「フロントランナー 平和づくり、現場主義で」が発表され、2018年7月12日には、NHK「視点論点・平和構築 新たな展開と課題」でも成果を発表した。2019年には、これまでの調査をまとめて、新書として、単行本を出版する予定である。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 8件)

- 1) 東大作「平和構築 グローバルな課題と日本の役割」 USJI (日米研究インスティテュート) Voice Vol 39、(査読無) 2018年
- 2) Higashi, Daisaku. “Challenges of Peacebuilding and the Role of Japan as Global Facilitator”, US-Japan Research Institute, USJI Voice Vol. 39、(査読無) (English), 2018年
- 3) 東大作 「ISIS後のイラク 平和構築とその課題」 雑誌『外交』(査読無) Vol. 48, 2018年
- 4) 東大作 「平和構築とPKO」 雑誌「外交」(査読無) Vol.44、2017年
- 5) 東大作 「南スーダンの深刻な国内対立…自衛隊撤収後にできること」 読売オンライン (査読無) 2017年
- 6) 東大作 「アフガニスタンの選挙」ワセダアジアレビュー、(査読無) Vol.19、2016年
- 7) 東大作 「アフガニスタン和平プロセスの課題と教訓」 東京大学国際社会科学専攻紀要、(査読有) Vol 66、2016年
- 8) 東大作 「南スーダンはどこへ行くのか~国際社会の調停と苦悩」 雑誌「外交」 (査読無) 雑誌「外交」 Vol.39、2016年

[学会発表](計 18件)

- 1) 東大作 “Challenges of Inclusivity in Peacebuilding” 米国ワシントン DC の USJI (日米研究インスティテュート)主催のシンポジウム “Challenges of UN on Peacebuilding: Roles

of US and Japan” における基調講演、2019年3月12日

2) 東大作 “Panel Discussion with Dr. Daisaku Higashi” 南スーダンのジュバ大学主催の東の講演会 2019年3月1日

3) 東大作 “Constructing Legitimacy in Peacebuilding and Challenges of Inclusivity: Cases of Afghanistan, Iraq, and South Sudan” エチオピアのPKOセンターでの東の講演会 2019年2月26日

4) 東大作 “Challenges of Inclusivity in Peacebuilding and Mediation” トルコのビルケント大学主催の東の講演会。2019年2月20日

5) 東大作 “Challenges of Constructing Legitimacy in Peacebuilding: Research in Afghanistan, South Sudan, Syria and Iraq.” イラクのバグダッド大学主催シンポジウム “Peace Building” における基調講演。2019年2月18日

6) 東大作 「「NHK ディレクターから、国連政務官、そして平和構築の研究者へ」東北大学経和会年次総会特別講演 2019年2月7日

7) 東大作 「イラクの平和構築と国連」高校生模擬国連大会での特別講演、2019年1月14日

8) 東大作 「平和構築における正統性樹立の課題と包摂性」学習院大学での特別講演会、2018年12月12日

9) 東大作 “Challenges of Inclusivity in Peace Process: South Sudan, Syria, and Iraq”, ニューヨークの国際平和研究所 (IPI) 主催シンポジウム “Importance of Inclusivity in Peacebuilding and Sustaining Peace” における基調講演。2018年6月12日

10) 東大作 “Challenges of Inclusivity in Peacebuilding and Mediation”, ベイルート・セントジョセフ大学招聘講演 2018年2月22日

11) 東大作 “Challenges of Peacebuilding in Iraq after ISIS”, イラク・アルナハライン国際戦略研究所基調講演 2018年2月19日

12) 東大作 「南スーダン 平和構築の課題」平和構築研究会年次学会、2017年12月1日

13) 東大作 「国連PKOと文民保護のジレンマ」日本防衛学会での発表、2017年11月11日

14) 東大作 “Challenges of Constructing Legitimacy in Peacebuilding”, 韓国、東西大学招聘特別講演 2017年11月22日

15) 東大作 “Challenges of the Peace Process in Syria” 国連平和構築支援オフィス主催講演会 2017年11月2日

16) 東大作 “Challenges of Constructing Legitimacy in Peacebuilding” ジュネーブ大学院研究所主催講演会、2017年9月20日

17) 東大作 Challenges of Peace Process in South Sudan、国連平和構築支援オフィス・政務局・PKO局・フィールド支援局合同開催の講演会 2016年11月4日

18) 東大作 「アフガニスタン平和構築の課題」 広島大学平和科学センターシンポジウム 「アジアの平和構築」における講演、2016年7月30日

〔図書〕(計1件)

1) 東大作 日本評論社、「人間の安全保障と平和構築」、2017年、284ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。